

みなさん

総会に参加しましょう!

異常な雨や蒸し暑い日の続いた今年の夏、体調を崩されたお子さんや親御さんもいらっしゃったことと思います。少しずつ過ごしやすくなってきましたが、回復はしたでしょうか。

さて、昨年9月に総会を開催してから、もう1年余が経過しました。この間総会で決めた活動方針に添って、ゆっくりした歩みではありますが、活動を進めてきました。11月には全国守る会主催の巡回療育相談を初めて実施したり、今まで会員の少なかった病院の親の会と懇談を持って会員の拡大を進めたりという活動に取り組んできました。また、全国の状況を知るために全国大会やブロックの学習会などにも参加してきました。

まだまだ不十分なところもありますが、1年間の活動を総括し、今後の取り組みについて話し合う総会を規約にもとづいて、開催したいと思います。

お忙しいこととは思いますが、ぜひ多数参加されて、ご意見を反映させて頂き、重い障害を持った人たちが幸せに生きてゆけるように活動していきたいと思っています。

日 時 10月25日(日) 午後1時30分～3時30分

場 所 医王病院 3階会議室
金沢市岩出町二-73 TEL258-1180

- 議 題
- ・活 動 報 告
 - ・会計及び監査報告
 - ・今後の活動方針について
 - ・役 員 改 選



尚、まだ会員になっていない方も「守る会」の活動を知って頂くため、オブザーバー参加できますので、お誘い下さい。

新入会員の紹介

- 全国守る会・石川守る会・・・正会員
- | | | | | | |
|-------|-------------|------|-------|-------|------|
| 街道外茂治 | 嶋行進 | 北川良喜 | 村井吉正 | 東幸雄 | 橋場信夫 |
| 上田邦子 | 中野外男 | 大西幸一 | | | |
| 賛助会員 | 全国守る会・石川守る会 | 犀川明子 | 石川守る会 | 野間比南子 | |

今年も

巡回療育相談をおこないま～す

11月10日(火) 能登地区 家庭訪問

相談スタッフ

松島七尾病院院長、看護婦、越坂石川守る会役員
七尾児童相談所職員、守る会本部職員

*希望される方は七尾児童相談所(0767)53-0811まで連絡ください。

11月11日(水) 加賀地区 会場 小松サンアビリティーズ1階和室

相談スタッフ

石川医王病院院長 犀川小児科医長 守る会本部職員
わき本石川療育センター療育課長 西田淳子明和養護
中央児童相談所職員 越坂石川守る会役員

*希望される方は当日会場におでかけください。

巡回療育相談とは

重症心身障害児(者)を守る会が昭和41年より、日本自転車振興会の補助を受けて全国各地で実施しているものです。障害児を抱えている家族の医療・教育・福祉などの悩みや相談に応じ、それぞれの専門家よりアドバイスを戴き、重症心身障害児(者)の家庭生活が少しでも快適に過ごせるように援助するという趣旨で行なわれます。

石川県では昨年初めて能登地区と金沢地区で開催されました。今年も石川県が対象となりましたので上記のような日程でおこないます。

会員の方でもまた、会員以外の方でも気軽に参加してください。

また、ひとりで悩んでいる方がおられたら、ぜひこの相談会のことを知らせてあげたり、誘ったりしてください。

講演会のご案内



—— 横浜訪問の家「朋」の施設長

日浦美智江氏来沢 ——

11月3日(火) 文化の日

午後2時～ 石川県福祉会館にて

*会費500円

*保育もします。

横浜で重症心身障害者の通所施設「朋」の代表で「両親の集い」にも時々登場していらっしゃる日浦美智江さんが石川県に来られます。この機会にみんなでお話を聞きたいと思い、講演会をもつことにしました。石川県手をつなぐ育成会や肢体不自由児協会など障害者団体や親の会なども共催しておこないます。

横浜で訪問学級に通う障害の重い子どものお母さんたちが、卒業後も毎日生き生きと過ごせる場を作ろうということで小さな作業所から始めた通所の施設です。

日浦さんはお母さん達とともに開設からがんばってこられた方です。

朋って・・・どんなところ

朋は、重い障害をもつ人たちの学校教育終了後の日中活動の場です。横浜市では、昭和47年に、どんなに重い障害があっても学校教育を受けられるようにと、訪問学級を一般校の中に一特殊学級（後に小規模養護学校として独立）として開設しました。そこで子どもたちは、

1. 一人の人間としてその人格を尊重され
2. 可能性を信じる人達に囲まれ
3. 一人一人の力に合わせた

教育の中で、生活のリズムがつき、のびのびと自分を表現し、他人の中で生きる力をつけていきました。

学校教育には卒業があります。重い障害のある人達の場合、せつかく教育の中で身につけた力を他人の中（社会の中）で試す機会がないことに疑問を感じました。本人たちには力があるのに、条件が整っていないために、家庭の中、施設の中という生き方しかないとしたら、どれほどみんなは悔しいことだろうと考えました。親の方たちとの運動の中から、地域作業所「訪問の家」をつくり、「朋」をつくりました。



北九州には「にこちゃん通信」というグループがあります。おどう社から本も出ています。その人たちは、本当に早くから「障害のある子どもの受容」ということを、自分たちのテーマとしてディスカッションしています。

「この子と自分と、どうやって生きていくか」「この子の人生と自分の人生をどう折り合いを付けるのか」ということについて話しています。そういうことを、子どもが小さいときからやっていないと駄目なんですね。学齢に入ってからでは厳しいけれども、遅くはありません。

子どもは、親がひつついて生きていることが幸せなのかどうか…。やはり他人に気持ちが分かってもらうことが大切です。お母さんたちは「子どもに残すのは財産じゃない。子どもの周りにどれだけ「人」を残すかです」とよく言います。そのためには子どもにいろいろな人との出会いを作り、可能性にチャレンジする場を見つけていくことです。その時に親が淋しかったりするの、親の気持ちなんですよ。

全国訪問教育研究会シンポジウムより



昨年、朋には述べ三〇八一人のボランティアの方々に来ていただきました。その方々を引っぱったのは、職員でも誰でもない、朋のみんなです。「ありがとう」と言葉では言えない人たちの笑顔です。障害の重い人たちは一人では生きにくい人たちでもあります。誰かの手助けがいつも必要です。言葉を変えれば、いつも誰かと関わり合って生きています。

みんなを中心に人の輪ができていった、それが朋の歴史だと思っています。

「みんなは磁石みたいだね」と言ったことがあります。人と人を結びつけていく磁石、無心の磁石が、私たちのいいところを引っぱり出して、私たちをつないでいってしてくれる。朋という舞台で新しい出会いがあるたびに、そう思います。

この本が、みなさんと朋との出会いを生んで、朋のみんながまた人と人との結びつきをつくる役割をしてくれることを信じています。

朋はみんなの
青春ステージより

<プロフィール>

1972年4月 横浜市立中村小学校訪問学級指導講師
 1979年4月 横浜市立上菅田養護学校中村方面教室指導講師
 1982年4月 横浜市立中村養護学校指導講師
 1983年4月 障害者地域作業所「朋」指導員
 1986年4月 社会福祉法人 訪問の家「朋」施設長

1979年4月～現在 財団法人横浜市在宅障害者援護協会理事
 1985年4月～現在 社会福祉法人訪問の家理事
 1990年4月～現在 横浜やまびこの里理事
 1994年4月～現在 神奈川県児童福祉審議会委員



「この子がいたから、これだけの人生しか送れなかった」というのではなく、「この子がいたから、これだけの人生が送れた」と胸を張って欲しい。「どうして私が」という思いを自分自身の心の中だけの問答にするのではなく、子どものために行動するエネルギーにして欲しい。

人間はあるがままを受け入れてもらえる人間関係の中にいるのが、最も心が安まります。常に評価されていると感じたら、心は萎縮してしまいます。歩けなくても、手が使えなくても、言葉が話せなくても、あなたがここに居ること、この家族の中にいることが大切なのだと考える、そんな家族の中で生きて欲しいと思います。その人がもてる力を出し切ったとき、人は心の底からの充足感を味わい、生きている喜びを味わうことができます。そのときの人間の顔は美しい、と思います。もてる力は一人一人違います。個性があります。その人がその人らしく生きてこそ「生きる」ということだと思います。

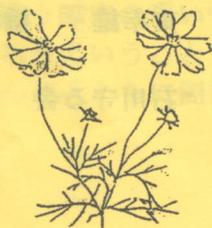
世界にただ一組しかない親と子。どちらを選んだのでもない、縁としかいいようがない親と子。あなたが親で良かった、お前が子どもで良かった、とお互いに言いたい。そのために、障害をもつ人々を、家族を、社会から孤立した存在にしないこと、そのことが最も重要なことだと思います。

みんなが生きていて良かったと言える社会で生きていきたい、と心から思います。



みんなと出会って二四年、私は何に引っぱられてきたのだろうと思います。いろいろなことが脳裏をよぎりますが、やはり最後に残るのは、みんなの笑顔とお母さんたちの笑顔です。みんなの笑顔を見たくて、いつも明日を、次の日を考えてきたように思います。そして、その笑顔から私自身が生きる力を頂いてきた二四年だったと思います。

朋のみんなは、とても個性的でチャームングです。いたずらつばい笑顔、はにかんだ笑顔、あつけらかなとした笑顔、どの笑顔も無心です。私たちに媚びる笑顔は一つもありません。自分自身が気持ちいいから、楽しいから、笑っている笑顔は、私たちの気持ちを吸い込みます。いつのまにか私たちが



も笑顔になっています。みんなは私たちの一番いい心を引き出してくれる、いつも感じます。

私たちが最後に到達したいと願う無心という境地に、みんなはすでにいるのだと思います。作手、朋こは丞ベ三〇八一人のボランティアの方々が来てくださいました。その方々を引っぱった